

学習のきまり

1 授 業

(1) 学習準備

- ア 授業が終わったら、次の学習に使うものを机に出しておく。
- イ 机の上に、教科書、ノート、下敷き、消しゴム、鉛筆、赤鉛筆、青鉛筆（5，6年は赤ペン・青ペン可。多色ペンは不可。）を出しておく。（筆入れはなるべく出さない。）
- ウ 教科書は左側、ノートは右側におき、学習するところを開いておく。

(2) 始め

- ア 「起立」の号令で、「気をつけ」の姿勢をとる。
- イ 教師が1歩下がったら、「今から〇〇の学習を始めます。」の号令で「はい」（全員）と言い、しっかり頭を下げる。
- ウ 教師が1歩前へ戻ったら「着席」の号令をかけ、すわる。



(3) 授業中の姿勢

- ア 話す人の方を向いて聞く。
- イ 足の底を床に付けて背筋を伸ばす。
- ウ ノートに書くときは、背筋を伸ばして、鉛筆を持たない手でノートを押さえて書く。

(4) 終わり

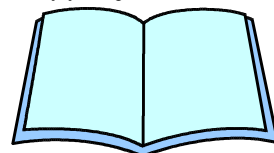
- ア 「起立」の号令で「気をつけ」の姿勢をとる。
- イ 教師が1歩下がったら、「これで〇〇の学習を終わりにします。」の号令で、「はい」（全員）と言い、しっかり頭を下げる。
- ウ 「わかれ」の号令を聞いてから、次の授業の用意をして休み時間にする。

(5) 聞き方

- ア 話し手の方を見て、大事なことを落とさず正しく聞き取る。
※詳しくは「聞き方あいうえお」等を参考にする。

(6) 書き方・ノートのとり方

- ア 正しい鉛筆の持ち方で、目は紙面より30センチ以上離して書く。
- イ 書き順と形に気をつけ、丁寧に書く。
- ウ 通常は鉛筆を使用する。
- エ 教科ごとに決められたノートを使う。
- オ ノートは、学年で決められた形式のものを使用する。
- カ 「ノートの使い方」をノートにはり、よいノートづくりを意識する。
- キ 表紙には、学年、学級、番号、氏名をていねいに書く。
- ク その授業のめあて、日付、学習内容、ページ、番号などを入れ分かりやすいま
とめ方が工夫できるようにする。
- ケ 本時のめあては赤で、まとめは青で囲む。（どの教科も）



(7) 返事・話し方

- ア 指名されたら「はい」と大きい声で返事をする。
- イ 話すときは「～です。」「～ます。」と最後まではっきり答える。



ウ 発表の仕方（例）
「わたしは、～だと思えます。そのわけは、～だからです。」

エ 質問の仕方（例）
「～について質問します。～は～ですか。」
「～さんの意見の～はどういうことですか。」
「分からなかったなので、もう一度発表してください。」
※詳しくは「話し方かきくけこ」「話合いの仕方」を参考にする。

（8）手の挙げ方

ア 手をまっすぐ挙げる。次の意見を言うときに、「〇〇さんにつけたし」「〇〇さんに質問があります。」などと言って手を挙げる。

（9）声の大きさ

ア 「声のものさし」を利用する。

1の声…となりの人 2の声…グループの人
3の声…教室のみんな 4の声…号令など



2 学習用具

- （1）教科書、ノート類等学校で決められたふさわしい物を使う。
- （2）筆入れには鉛筆を5本と赤鉛筆、青鉛筆（5，6年は赤ペン・青ペン可。多色ペンは不可。）、消しゴム等、先生から指示があったものを入れる。（マーカーペンは5，6年のみ1本可。）（シャープペンシルは小学校では使わないので、持ってこない。）
- （3）キーホルダーなど余計なものは持ってこない。
- （4）鉛筆は毎日家で削ってくる。削らなくてはならない場合は、休み時間に削る。
- （5）下敷きを必ず用意する。

3 机の中

- （1）左側に整理箱、右側には、教科書・ノート・下敷き・筆箱を入れる。
- （2）整理箱の中には、はさみ・のり・色鉛筆・クレヨン（クレパス）・書き方ペン・ネームペン・三角定規・コンパス・物差しなど、学年で使用する物を整理して入れておく。

4 体育のきまり

- （1）体育着・赤白帽子 ※帽子のゴムはあごにかける。
- （2）着替えた服をたたんで、服装を整えてから移動する。
- （3）体育館では、体育館用シューズに履き替える。

5 家庭学習

- （1）時間を決めて、集中して学習をする。
- （2）学年のめやすとしている学習時間は取り組む。
【めやす】学年×10+10 例：1年—20分 3年—40分 6年—70分
※家庭学習強調週間の時は、「学年×10+20」となる。
- （3）自分で自分から学習をする。（自主学習）
- （4）時間割や連絡帳を確認して、明日の学習の用意をする。